

まちの未来を考えて、 もう一度輝きを取り戻したい

リニア時代の中心市街地の役割と、これからのまちづくりとしての公民連携



●南信州アルプスフォーラム
長野県飯田市常盤町41番地 飯田商工会館 2F
TEL : 0265-23-7875 FAX : 0265-23-7872

●特定非営利活動法人 いいだ応援ネット イデア
長野県飯田市本町2丁目15番地 いたうや3F
TEL.&FAX 0265-56-9335

社会の変化に従い、全国的に中心市街地は元気が無くなっている。飯田市の中心市街地も例に漏れず、日曜日は閑散とした状態が続いている。しかし、11月3日の丘のまちフェスティバル等のイベント時はどうだろうか。5万人近い市民が集い、楽しそうに闊歩している本来の街の姿が見られる。

そこには、伝統文化と共に、個人が楽しめるサブカルチャーも有り、家族や同じ思いを共有出来る友達がいて、伊那谷の食材を使用した美味しい食があり、イベント運営に汗を流す事自体も交流として楽しんでいるスタッフもいる。

まち（中心市街地）は、長い歴史の上に人情があり、技に裏付けられた文化が宿る。

まちは住んでいる人々にとっては様々なインフラが近くにあって利便性が高くコンパクトな職住近接の生活が出来るメリットが第一。

他地域からまちを訪れる人々の目的は『**まちは人に会いにくところ**』につきる。さまざまな交流が未来のまちを育てていく。

また、多様な活動が連続的に存在し時間軸として楽しめるのもまちの魅力。観劇やコンサート、会議や勉強会、サークル活動等で友人達が集まり、その流れで食事を楽しんだり、お酒を飲んだり・・・

目的地に行くために人が歩く気になる距離は450メートル程度と言われている。代表的な公共交通であるJR飯田駅から半径450mを描いてみると人々の行動パターンが見えてくる。まちづくりとしてしっかり押さえておくべきポイントであり、自宅と目的地の駐車場を歩き来するだけの車主体の行動パターンは環境モデル都市としてもふさわしく無い。

スーパーメガレジョンの中心となる大都市東京が輝きを失わないのは、大プロジェクトでどんなに混雑が予想されても、外に出さず都内に魅力を積み重ねているからだ。東京オリンピックもおお台場に、山の上に建てれば良い電波塔を浅草に（東京スカイツリー）。経済に裏付けられているというのが、東京が生きていると言われる所以である。

今回、『リニア時代の中心市街地の役割と、これからのまちづくりとしての公民連携』を提案します。

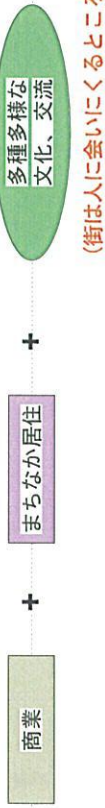
人が歩いて行けるまちの中にこそ、文化や交流が出来るインフラやサービスが存在して、リニア時代の魅力を中心市街地が担っていく事を目指しています。また、新たなまちの機能としての『**まちなかMICE**』の実現と、そのための整備や運営自体も、公民連携による『PFI・PPP』の手法で実現していく事も大きな課題として提案します。

このように、公と民が手をつなぎ、まちの将来を考え、実現に汗を流し、共に成長していく手法を是非進めて行きましょう。

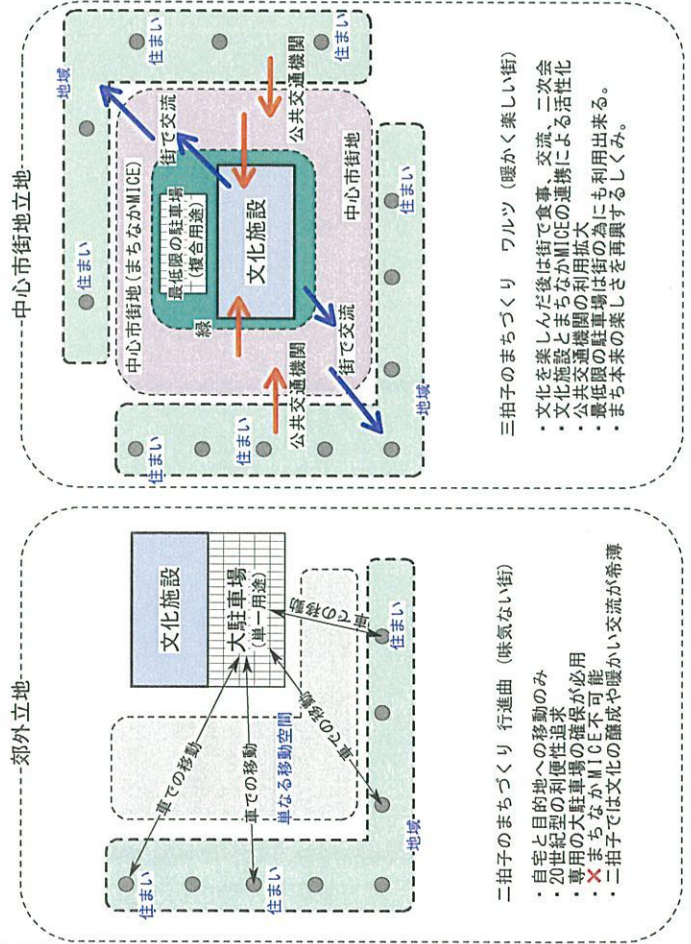
リニア時代の中心市街地の役割と、これからのまちづくりとしての公民連携

複合文化施設とまちなかコンベンション構想 (まちなかMICE)

● 魅力的な中心市街地



● 飯田市民から見た文化施設の立地

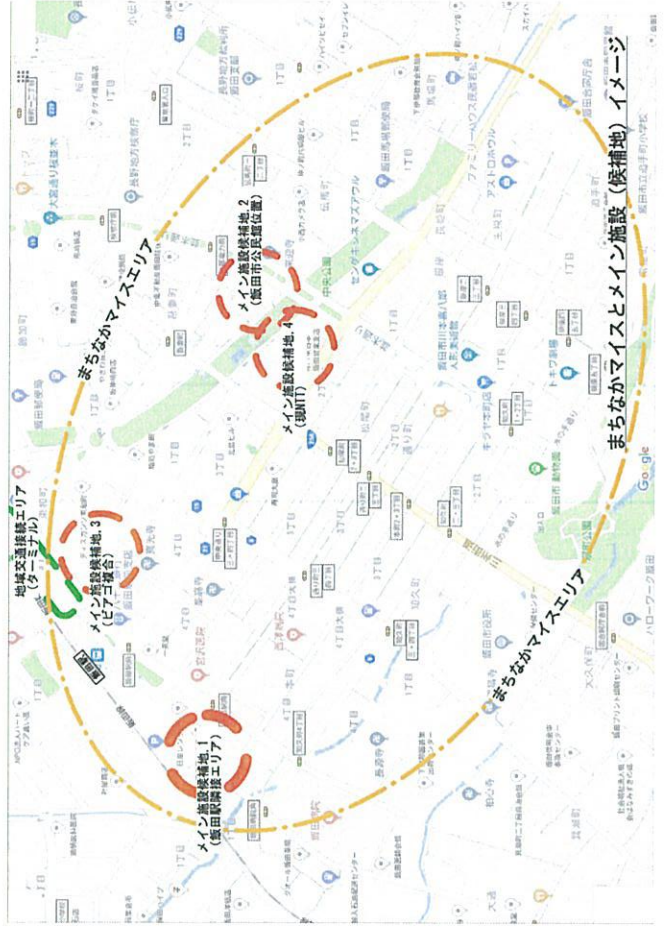


● 飯田下伊那の中核である中心市街地に新たな複合文化施設の整備と、街のポテンシャルを活かした「まちなかコンベンション (まちなかMICE)」地域として振興する。

A—なぜ、中心市街地なのか？

1. 既存のストックがある (街の三種の神器 ・ 市庁舎 ・ 文化会館 ・ 図書館)
2. 歴史的文化的な遺産 お寺、史跡が数多く残っている。
3. 交通ネットワークの整備が進みつつある。
4. 街並みが整い、各行政機関もあり、利便性が高い。
5. 飲食店の豊富さと多様性が高い。
6. 宿泊施設の多様性 14件500室 ビジネスタイプから温泉旅館までである。
7. 市街地でありながら緩やかな下り坂で山並みや緑が演出されている
8. 空家の増加が予想される。ここに会議施設、飲食、民泊可能です。
9. まちなかの風景が多様かつまとまっている
10. 飯田インター、座光寺スマートインターからのアクセス道路に近接し、利便性がよい。
11. 飯田らしさ、飯田の風情を感じられ体感できる。
12. 周辺観光地へのアクセスや、情報ネットワークも分かりやすい。
13. MICEに不可欠なソフトとサービスが揃っている。

● まちなかMICEとメイン施設 (候補地)

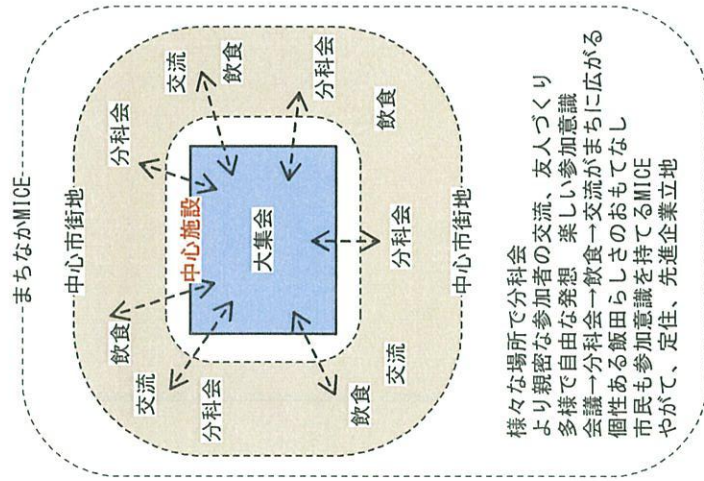
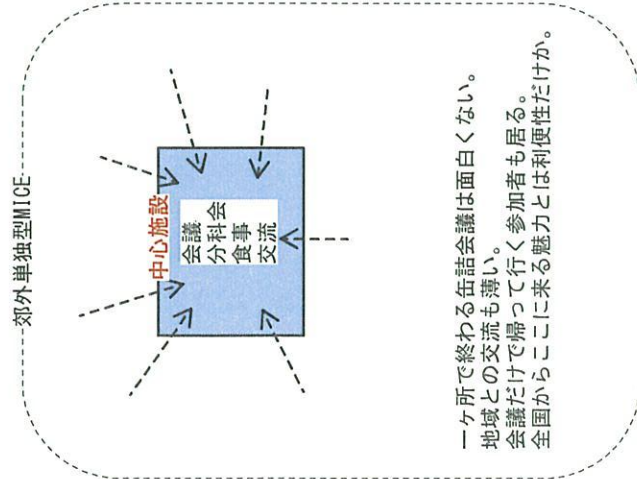


- この地域らしさと既存ストックを活用し、まちなかMICEを展開することにより
リア新時代の地方都市の賑わい活性化の事例となり得る

地域らしさ + まちなかMICE ⇒ 経済効果、社会波及
既存ストック

B. どのような経済効果、波及効果があるのか？

1. 宿泊、飲食、交通費、土産代、二次会（遊興娯楽）、打合せ等でまちが賑わう。
2. 周辺観光地への立ち寄り等、面的効果が期待出来る。
3. 情報の受発信 地域の認知、PR、地域ブランドの確立への取り組みが進む。
4. 地元への影響 人材の育成、ホスピタリティーの醸成、まちづくりへの関心が高まる。
5. 域内への経済循環が向上する。
6. コンベンション機能の建築による波及効果も期待出来る。



MICEとは、Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive tour（報酬・招待旅行）、ConventionまたはConference（大会・学会・国際会議）、Exhibition（展示会）の頭文字をとった造語で、ビジネスラベルの一つの形態。参加者が多いだけでなく、一般の観光旅行に比べ消費額が大きいことから、MICEの誘致に力を入れる国や地域が多い。日本でも、インバウンド振興策の一環として、国や自治体により誘致活動が盛んに行なわれている。

まちの未来に向けて

- まちづくりとしての公民連携（より主体的な関わりに向けて）
- 1. 主要施設の計画過程から市民が関わるPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携）の手法を導入することを提言する。
民間が主導することによるVPM（ヴァリュエー・フォー・マネー）の実現を追及し、高効率の行政サービスの提供と行財政負担の低減を可能とする新たな飯田方式公民連携の仕組みを確立する。
- 2. 「まちなかMICE」の運営を担う市民主体の『飯田コンベンションビューロー』（DMO）を組織化する。

リニアとこれからのまちづくりを考える 2016年12月22日

講師 (公益財団) 都市づくりバブリックデザインセンター 顧問 小澤 一郎 氏

これからのまちづくりのテーマ
～地域の環境・文化・経済的充実度の強化にむけて～

- ①生活空間：市街地空間の質的改革
- ②社会・経済のクリーン化 (環境・エネルギー・モデル)
- ③モビリティイノベーション (リニアと地域交通)
- ④農林業と観光：2つのイノベーション

①生活空間・市街地空間の質的改革
～より豊かで・居心地の良い市街地空間づくり～
～いくつかのテーマ～
* 生活空間：市街地空間の質的改革 (地方都市モデル)
* 社会・経済のクリーン化 (環境・エネルギー・モデル)
* モビリティイノベーション (リニアと地域交通)
* 農林業と観光：2つのイノベーション

②社会・経済のグリーン化
～市街地空間の質的改革と合わせた
環境・エネルギー政策の推進～
都市づくりを進め国内・世界のメッカになる。

③モビリティイノベーション
～リニアと地域交通～
* リニアの高速性能を広く活用する。高速トランジツトハブ”
* 地域交通イノベーション
* 市街地公共交通システム (路線・車両・停留所等)
* 市街地公共交通システム
* 車庫・自転車・電動自転車
* 駐車空間の複合利用
* 自動運転車への対応 (電気・水素・自動運転)

～全く新しい地域交通システムと市街地交通環境の構築～

④農林業・観光イノベーション
～6次産業化と民間活力の活用
～大都市からの資源・雇用の推進
～地域エネルギー政策と林業の活性化 (需要創造)
～地域エネルギー政策と施設型農業
～観光イノベーション
～広域連携：伊香谷連携・中間駅連携等
～MICE：環境・エネルギー先進都市としての
定型的・体系的MICE拠点 (街なかMICE)
～新しいカタチの施設整備 (街なかMICE)
～街づくりと一体的な滞在型、継続的訪問型、協働型画型

「総合的デザイン」による都市再生
* ライフスタイルデザイン
* アーバンデザイン
* ビジネス・観光デザイン
* 環境エネルギーデザイン
* 環境エネルギーデザイン

＜リデザインにむけたテーマ例＞
I. 公共サービスの創造的リノベーションとは何か
* 対象とする公共サービスは何か
例：図書館、生活空間、子育て・福祉等
長良改善、借り上げ公舎を含む。ユニークベニュー化も検討。

II. ユニーク・ベニューデザイン
* 対象施設・対象空間 (場) としてどういうものがあるか。
例：・駅、美術館、博物館、文化財建築物等の既設の活用を含む。
・市民、来訪者が利用する新たな施設、空間の設置を含む。
・市街地内での農園・果樹園 (立体利用や設備化を含む) も検討。

III. ストリート・エリアマネージメントの実践
マネージメントの対象：
景観の他、雰囲気やサービス・機能の集積、投資・ビジネスの活性化
* 青空駐車場、空ビル、空き床・空き家の活用 (上記1、2の展開)
* 暫定利用の活用
* 民間企業と市民が「まち」を使いこなすのを公が支援。
 (行政活動は縮小化、民間と市民の活動は多様化・拡大化の方向)
新たなスペース需要：ショーケース、コラボスペース

これからのまちづくりをどのように進めたらよいか <ひとつの考え方>

「まちの活性化・都市デザイン競技」～32チームから多くの提案～

- * 各町組みの歴史・文化を大事にしたまちづくり
まちなかに残る歴史・文化空間の見える化
* 結い、りんご・人形劇、スロースポーツ・エコ・倉を活用したまちづくり
エデュカルシイ (園芸・菜園・果樹園の内部化)
* 皆で連携し、みんなが管理・改善していくまちづくり (全体と個の協働)
エリアエネルギーマネージメント

- * 駅前商業・有料老人施設や行政施設等と観光・交通機能による結びつき
中心市街地における新たな機能 (複合的土地利用) の展開
* 飯田の風景・風土・景観デザインを組み合わせまちづくり
中心市街地におけるデザインロードづくり

- * 緑の軸 (中央公園・りんご並木、通りまち等) と裏山・緑の小広場ネットワーク。
まちなかに残るグリーンシステムの再構築
* 青空駐車場、空家、裏山等の再帰・活用による新たな市街地空間の創造
上記の機能はめ込みや展開に活用
* 新しい公共交通と歩行者空間を軸とした市街地交通システムの整備 など

重点エリア (特に丘の上) における進め方 (イメージ)

1. 今回のまちづくりコンペで出された提案・アイデアを材料として、
「中心市街地将来像」の共有化にむけたアクションを定める。
市街地の機能、空間構成、交通システム (公共交通と歩行者空間、
駐車場の在り方が重要) や緑のネットワーク等出来るだけ、
具体的な形を提案とする。

- * 軸がより良くなるためには、全体がより良くなるのが重要
であること (軸と全体の協働)
* 「固有性の深化」を図り、「小さな世界都市・主たる地方都市」
となるための「軸ネットワークの実現」(地域での実践と対外的発信)
を組み合わせまちづくりとする。

2. 戦略テーマとしては、次のものが考えられる。
飯田が築き上げてきた「ブランド」に磨きをかける取組み。
＜戦略テーマ：例＞

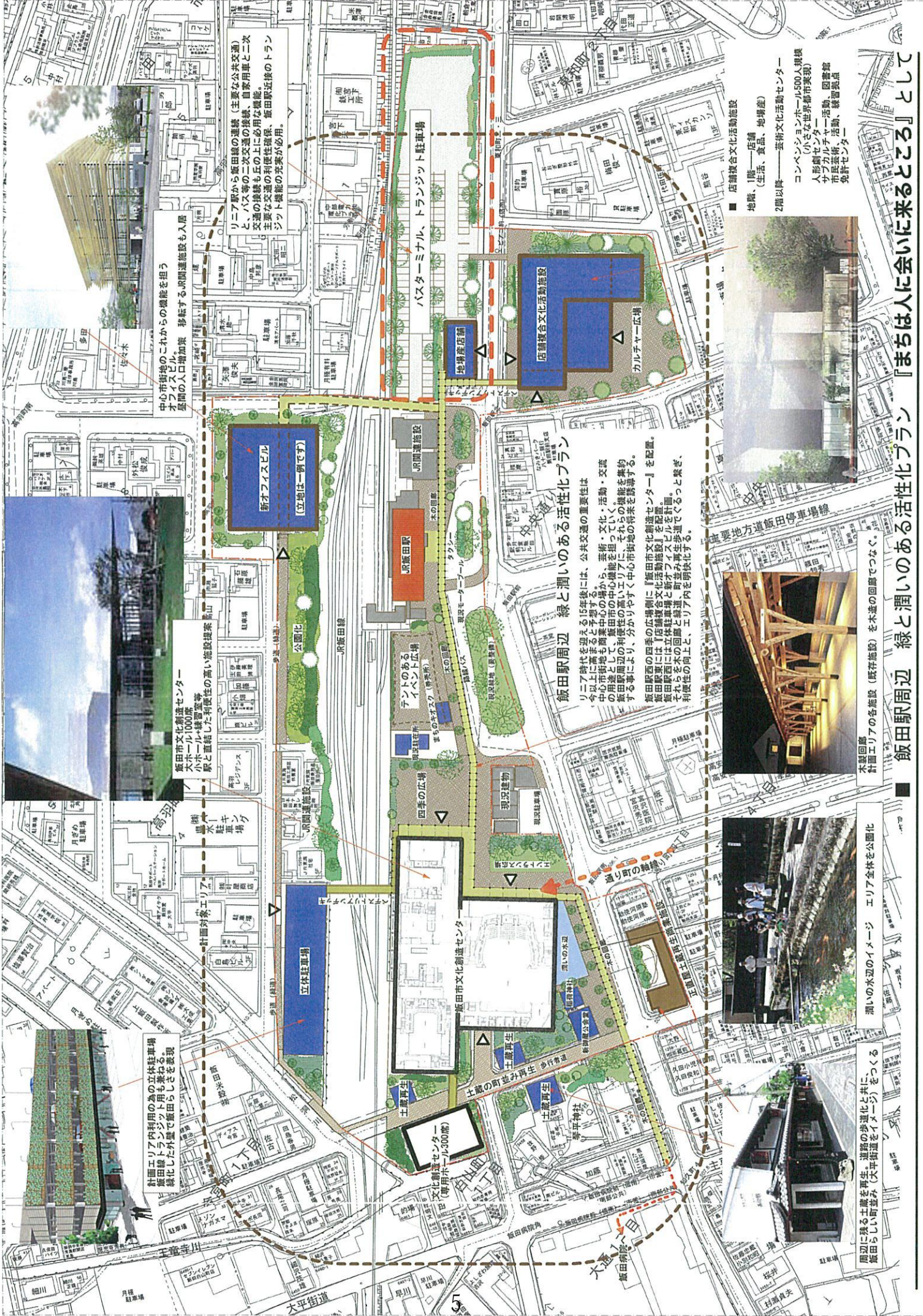
- ①国内・世界にむけた環境エネルギー先進都市づくり
～創エネ・省エネ・活エネの
先進的システムを組み込んだ市街地づくり～
- ②地方都市でこそ可能な次世代都市街地づくり
～生活空間・文化空間・観光空間として
豊かな歩行者空間と新しい公共空間体系を構築した
次世代市街地の全国先導モデルづくり～

重点エリア：丘の上・リニアステーション・フロント

<具体化に向けた取組み>

1. 行政と「通り (町会)」の代表、地元専門家及び外部専門家による
「将来像及びアクションプラン検討会議」を設置し、案の策定を行う。
2. 上記「将来像及びアクションプラン」(案) をベースに、各町ごとに、
将来像の共有化と地区アクションプランの具体化を図る。
これらを進めるため、コミュニティプランナー (プランニングオフィス) の
設定と地域活動の支援を行う。
(公募による地元専門家 (事務所) の選定と地域での位置づけ)
3. 全体調整と「将来像及びアクションプラン」の具体化を、
行政とコミュニティプランナー・外部専門家による
「運営会議」を設置して、推進。

上記について、「都市計画学会」や「(公財) 都市づくりバブリックデザインセンター」の公益支援を活用。



計画エリア内利用のための立休駐車場
飯田駅とトランジット用も兼ねる。
緑化した外壁で飯田らしさを表現

中心市街地のこれからの機能を担う
オフィスビル増加 駅間の人口増加策
屋間の人口増加策

新オフィスビル
[立地は一例です]

飯田市文化創造センター
大ホール1000席
小ホール練習室等
駅と直結した利便性の高い施設提案

飯田市文化創造センター
大ホール1000席
小ホール練習室等
駅と直結した利便性の高い施設提案

リニア駅から飯田線の運輸（主要な公共交通）と、バス等の二次交通の接続も丘の上に必要な機能。主要な交通の利便性確保、飯田駅近接のトランジット機能の充実が必要。

飯田駅周辺 緑と潤いのある活性化プラン

リニア時代がもたらす15年後には、公共交通の重要性は今以上に高まる。飯田市の中心市街地を軸とし、芸術・文化・活動・交流の場を創出し、まちの中心市街地を活性化させる。まちの中心市街地を軸とし、芸術・文化・活動・交流の場を創出し、まちの中心市街地を活性化させる。

飯田駅周辺の広域に『飯田市文化創造センター』を配置。飯田駅周辺には『飯田市文化創造センター』を配置。飯田駅周辺には『飯田市文化創造センター』を配置。それらを中心とし、エリア内を活性化させる。



潤いの水迎のイメージ エリア全体を公園化



木製回廊 計画エリアの各施設（既存施設）を木の回廊でつなぐ。



店舗複合文化活動施設
地階、1階—店舗（生活、食品、地産産）
2階以降—芸術文化活動センター
コンベンションホール500人規模
（小さな世界都市実験）
人影劇場
サブカルチャー活動、図書館
市民芸術活動、練習拠点
免許センター

飯田駅周辺 緑と潤いのある活性化プラン 『まちは人に会いに来るところ』として

周辺に緑を再生させ、道路の歩道化と共に
飯田らしい町並み（大平街道をイメージ）をつくる

通りの水迎のイメージ エリア全体を公園化

木製回廊 計画エリアの各施設（既存施設）を木の回廊でつなぐ。

店舗複合文化活動施設
地階、1階—店舗（生活、食品、地産産）
2階以降—芸術文化活動センター
コンベンションホール500人規模
（小さな世界都市実験）
人影劇場
サブカルチャー活動、図書館
市民芸術活動、練習拠点
免許センター

屋内体育施設・コンベンション施設の誘致申し込みの届け

私たち、山本地域づくり委員会と阿智村上中関区自治会は、この度の広域連合からの大型スポーツ・会議施設の誘致公募に関し、趣旨に賛同し地域を上げての申し込みを共同提出致しますので、是非とも候補地としてご検討頂ます様お願い申し上げます。

また、当地籍はこの度の施設誘致の意義に加え、三遠南信地域連携ビジョンにおける広域的な防災体制の中で、災害発生時には隣接県や被災地域外からの応援を円滑に受け入れる拠点などにも寄与できる、複合的なエリアになり得るとも考えます。

尚、この土地はリニア残土受け入れが前提で生まれますが、南信州圏域振興交流拠点の背景にリニア残土が有ることは、リニア効果の最初のケースに繋がるのではないかと考えますので、重ねてご検討の程お願い申し上げます。

記

1 誘致地籍の地形概要

飯田山本インターチェンジ南側に位置する土地で、周辺含め標高 600 ㍓・断面高低差が 20 ㍓程度の 2 つの窪地形状となっています。

現況地目は山林・畑・田で、総面積は平面で推定 21 ㍓余となります。

現在この土地は、山本地域づくり委員会と阿智村上中関区住民が、リニア新幹線トンネル残土受け入れを、地権者の同意を得て申請している地籍です。

2 誘致の理由

ここは、地勢的にも三遠南信自動車道と中央道の結節点として広域交流の要所であり、将来的には羽場大瀬木線や南バイパス（仮称）の整備などにより広域農道やリニア新幹線飯田駅にもアクセスが簡便になり、且つ自然環境にも優れた内外の交流拠点になり得ます。

その上で、当該地は飯田運動公園と連携することでスポーツを基点とした地域振興構想として、南信州地域の南部・西部地区にもリニア効果を浸透させることなど、防災機能を含めた多様な施設誘致の効果が期待できる所であると考えます。

3 当該地の可能性

当該地に隣接する地帯には畑耕作地が広がり、今回の誘致申込みの利用の他にも多様な活用が考えられ、あらゆる可能性を秘めている点にもご留意いただき、夢と希望あふれるリニア時代に寄与していきたいと考えます。

平成30年2月26日

飯田市市長 牧野光朗 様

阿智村村長 熊谷秀樹 様

山本地域づくり委員会 元村 尚治




阿智村上中関区自治会長 林 正廣



平成 30 年 2 月 26 日

飯田市長 牧野 光朗 様

飯田 5 地区まちづくり協議会
橋北まちづくり委員会
会長 藤本 勝



橋南まちづくり委員会
会長 原 勉




羽場まちづくり委員会
会長 原 修司



丸山まちづくり委員会
会長 小澤伸好



東野まちづくり会議
会長 下平勤司



複合的文化創造施設建設（飯田文化会館建て替え）についての要望書

時下、貴殿におかれましては益々ご清祥のことと推察いたします。日ごろは、まちづくり委員会の活動にご理解、ご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。

さて、昭和 47 年建設の文化会館は、開設以後現在に至るまで芸能等の発表会、コンサート、講演会、その他各種活動の場として、多くの住民が利用してまいりました。まさに飯田下伊那の文化の中心施設として活躍してまいりました。

飯田文化会館は文化施設の一つではありますが、飯田 5 地区においては文化施設としての性格のみならず、地域文化の向上、地域の活性化、ひいては住民の誇りともなっております。

しかし、築後 40 年を過ぎる近年、施設、設備の老朽化、耐震化等の問題も顕著になりつつあり、そろそろ建て替えが必要な時期がきていると思われまます。住民、利用者からもそういった声が聞

かれるようになりました。

現在、市内にあるホール機能を有する3施設（飯田文化会館・飯田市公民館・県文化センター）については、市の公共施設マネジメントによるあり方検討が行われているとお聞きしております。

また、先般には南信州広域連合より、屋内体育施設、コンベンション施設の建設候補地に関する情報提供の依頼がありました。リニア開通を見据え大規模な施設を要望する声はありますが、長期的展望に立ち、永続的に維持管理が可能な施設規模や複合的に活用可能な機能での施設建設が必要かと思われまます。

つきましては、将来の住民に負担を繰り越さず、かつ文化の向上が図られる最も効果的、効率的な施設として、飯田文化会館の建て替えを検討する中で、コンベンション機能と現存する文化会館機能（ホール等）の複合的文化創造施設の建設を要望いたします。

記

1 建設場所について

現在までに積み重ねてきた地域資源を有効活用し中心市街地活性化を推進するために、西口設置活用（開発）を見据えながら、飯田駅周辺における複合的文化創造施設（まちなかコンベンション）の建設について検討いただくよう要望します。

2 施設規模について

建設後の運営や維持管理において、将来の市民に負担をかけない規模での建設を要望します。

現在の文化会館規模と同程度の、客席数1,000席前後が想定されます。

3 施設機能について

将来にわたる利用環境向上に向けて、多機能・高機能を持った複合的文化創造施設の建設を要望します。

4 施設へのアクセスについて

リニアを利用した来客への利便を図るため、主要交通施設と新施設を結ぶ交通体系、バスターミナルや駐車場等の充実を要望します。

5 南信州広域連合が計画するコンベンション施設について

南信州広域連合が計画するコンベンション施設の想定規模・機能が上記と同等であるならば、最も効率的効果的な施設として、複合文化施設建設（飯田文化会館の建て替え）を同施設候補として推薦いただくよう要望します。

平成 30 年 3 月 6 日

「屋内体育施設、コンベンション施設の候補地に関する情報提供について」に対する見解
コンベンションセンターの構想について

人形劇のまち飯田運営協議会
会長 高松 和子

上記についての情報提供の依頼がありましたので、当協議会有志により検討したところ
について述べさせていただきます。

1、文化芸術等に関する大型施設の在り方について

現存の飯田文化会館の老朽化、時代への適合の状況から建て替えの時期が来ている
と思われるので、現文化会館の担っている機能も同時に俎上に載せ、新しい施設の建設
を検討する方が望ましいと思われる。

その理由は、飯田市の人口並びに対外的な活動状況や、他市に於ける文化施設の在り
方の動向からみて、大規模な施設 3 施設を建設し、維持していくことは財政的に見て
も困難が予想されると同時に、必ずしも十分に稼働させ、市民の生活に楽しみと潤いを
与えることにつながるとは言い切れないように思う。ついでに、現文化会館の果たして
いる機能と新しく考えるコンベンション施設を一体化し、小さな世界都市飯田の文化
芸術を享受・発信するとともに、観光、経済等の基地となるべき施設が建設されること
を望むところである。

2、文化芸術の創造・発信、享受の場として、また、国際交流の場としての拠点としての場

文化芸術の創造・発信・享受の機能を持つ現文化会館の機能とコンベンション機能を
一体化した大型の施設の建設を希望します。

理由

- 建設費、稼働率、維持経費、駐車場スペースの節約
- 一体的に双方で利用できる
- 例えば、ホールの上に四方または円形のガラス張とするなどで、景観の魅力も演
出でき、利用者からも飯田の魅力である自然の美しさを感じてもらえること
ができる。
- 使用頻度が少なく、また利用人数が少ない状況は市民目線から見ても望ましく
ない。

3、文化会館・コンベンションセンターを一体とした施設の候補地について

候補地は、現飯田市公民館とその周辺（市公 プール跡地 中央公園 東町公園 NTT等及び使用されていない住宅や店舗など）

理由

- 郊外地には広い土地があることは承知しているが、あえて丘の上に設置することを提案します。文化は人々の暮らしのすぐ隣にあって、日常的に出入りする場であるとともに、文化を感じさせる場であること。
- 歴史的にみても丘の上が飯田の文化をけん引してきた。
- 美術館、動物園、川本人形館、柳田国男館、りんご並木、桜並木、人形劇フェスタ路上公演、各種お祭り、時計塔等々の文化財があり、それらの施設と一体的に考えることができ、丘の上が文字通り「まち中が舞台」の中心を演出することができる。
- ホテルが近い、近くに喫茶やレストランがあり、開演前や終演後に利用しやすい。記載者は某市で終演後外に出たら辺りは真っ暗、住宅や食事をするところも見当たらないという経験をし、文化芸術と生活は隣り合わせにあるべきであると痛感した。
- 車に自由自在に乗れる人たちばかりではない。老人も学生もまた市外、全国から訪れるであろう人々もいることを考えてやはり丘の上が適当であると思う。自家用車以外の乗り物を確保できることも大切である。

4、その他の施設について

当運営協議会からの希望

人形劇のまち飯田を掲げて以来、様々な人形劇に関する活動が活発化する中で特に「演じる」という活動が多くなってきている。それらの方々から工房や、稽古場に対する悩みを多く聞くようになってきている。人形劇の活動がますます盛んになれるよう、工房、稽古場、倉庫、等が一体となった施設を確保できるようご検討いただきますようお願いいたします。

別紙

「屋内体育施設、コンベンション施設の候補地に関する情報提供について」 に対する施設整備への見解

～飯田下伊那の市民（citizen）による文化を創造する拠点整備の在り方～

平成 30 年 3 月 6 日
飯田文化協会
会長 清水正則



標記について、平成 30 年 2 月 13 日付で、本会宛に情報提供の打診がありましたので、飯田文化協会の「施設整備に関する見解」を述べます。

1. 施設整備のコンセプトについて

現在、飯田市では「飯田市公共施設マネジメント基本方針」に基づく優先検討施設の検討を進めています。この検討の中では、築 45 年経過する文化会館の今後の在り方を軸に、ホール施設の核となる文化会館の改築も視野に入れたホールの統廃合の検討を進める、としています。

また、平成 29 年 2 月に長野県より公表された「要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断結果」において、劇場で県内唯一、飯田文化会館が震度 6 で倒壊の危険が高いとされました。

こうした経緯のなかにおいて、現時点では、現在の文化会館に替わる新施設の建設が飯田文化協会ならびに文化芸術団体の悲願です。

今回の施設整備のコンセプトにあるコンベンション施設（もしくは屋内体育施設）が、次のような理念と機能を反映した施設であれば検討の余地はありますが、そうでない限りは「コンベンション施設」と「新飯田文化会館（仮称）」は別々に検討すべきと考えます。

＜飯田文化協会が考える施設の在り方＞

基本理念：

- ①「リニアバレー構想」が目指す、新たな文化の創造につなげるための「伊那谷交流圏」における中心的施設であること。
- ②現飯田文化会館がそうであるように、飯田下伊那地域の多様な文化芸術団体の練習と発表の場、郡市民の文化交流の場であり、市民と行政の協働により当地域固有の文化芸術を創造・発信する拠点とすることを基軸においた施設であること。

基本機能：

舞台芸術等の演奏・上演、鑑賞のための「質」を重視したホール、多様な市民団体の練習・創作活動が可能なりハーサル室や工作室等を基本機能として有する施設であること。

整備プロセス：

ホールの統廃合を含めて、計画段階から利用団体をはじめ市民が関わって造り上げる過程を大切にすること。また、そうしたプロセスを整備後に当該施設を拠点に計画実施する事業につなげていくこと。

2. 「求める情報」(候補地)について

(1) 候補地について

私たちは、「どこ(候補地)に造るか」よりも「どういう施設を造るか」を最優先すべきだと考えています。この考えから、飯田下伊那の市民による文化の創造の拠点として利用する市民が利用しやすい施設であるという観点から、これまでの活動拠点に倣った候補地が望ましいと考えます。

(2) まちづくりの視点から

現在提示されている施設整備の在り方では、グローバルな人の流れの促進するためのリニアバレー構想の実現をめざしています。

一方、飯田市の中心市街地活性化基本計画、および飯田市土地利用基本方針では、中心市街地を都市の中心としての機能を持つ、いわゆる飯田市の「顔」であるとしており、飯田下伊那地域の政治・経済・文化の中心としての位置付けは高まっていると考えられます。加えて少子高齢化、人口減少社会にあっては、高度成長期に見られたまちの郊外に広がり、郊外に投資するといった考えから切り替え、まちの中心という「核」に投資をしていく必要があります。

こうした“まちの魅力の創出”が、リニアバレー構想にあるグローバルな人の流れを誘引するものとなり得ます。

これらから、私たちが望む施設整備については、リニアを見据えた都市構造で位置付ける「中心拠点」が、文化芸術を創造・発信する拠点施設にふさわしい場であると考えます。

(3) 財政負担の低減に向けて

施設整備にあたっての財政の負担は厳しいものがあると考えます

そこで、主要施設の計画過程から市民(民間事業者を含む)が関わる「PPP」(パブリック・プライベート・パートナーシップ)等の手法を検討されるよう求めます。ただし、将来的な施設の運営管理にあたっては、行政(市)が主体的に関与することを条件とした手法が望まれます。

以上

屋内体育施設、コンベンション施設の候補地に関する情報提供について

飯田精密機械工業会からいただいた意見

- 基本的に他の都市にあるものは、必要ないのではないか。もし必要なら、既存施設の活用
拡張の対応が良いのではないか。 例：三日市場運動場など
- また、建設するのであれば、他の都市のものを廃止して集約するのであれば良いと思う。
- ハードより集客をする仕組みづくりが必要であり、飯田の生活をPRして人が集まる場所
が良い。
- 施設をつくるのであれば、ネットが繋がらない場所（大平等）に試験場（受検場）をつ
くり、大学入試等を行う場所とするような他との差別化ができるものを考えたほうがいい
のではないか。